



# みんなの文芸

## 俳句 ことぶき俳句会

頬骨にマスクのあとや古稀過ぎる  
 鯨焼く正午の報が鳴り終える  
 春の磯よろよろ揺れる昆布かな  
 小鰈をもとめし籠に春の雪  
 元気かと電話の向こうに春匂う  
 春の月へ人身御供の人参かわく

稲田 文江  
 大山みどり  
 長谷川アキ  
 福原 仁子  
 松尾恵美子  
 高橋 悦子

## 川柳 浦幌川柳会

誰に似た孫が京大合格し  
 一線を退いて増えてく予定表  
 時どきは籠も緩めて生きる年齢  
 雪かきで手足が痛いもういらぬ  
 大吹雪布団を被り冬眠す  
 孫笑みて手をつなぎくれ雪解道  
 着かざって隠せない皺見ずにおく

大山 研  
 山村 幹雄  
 阿部 麗紅  
 星 愛子  
 加藤 未貴  
 橋本 葉子  
 大山 研

## 川柳 上浦幌句の会

健康と豊作願ひ春祭り  
 血税がどこを廻りて政治家へ  
 どか雪が気圧の恵みか大仕事  
 捨てきれず古衣を生かす昨日今日  
 大学のもらって嬉しや精勤賞  
 雪解けをまっつぽっこり福寿草  
 道東へどつと雪置く荒將軍  
 春待たず追うよう逝った夫の許し  
 春近し日差しが強くだんだんと  
 早いもの一年が過ぎた大学生

高橋 幹雄  
 笹島カヨ子  
 河村みよ子  
 芳川 乙美  
 加藤 明敏

## 短歌 心友愛会

努力するこれから先を案じつつ  
 老いた体が儘ならぬ日々  
 朝起きてカーテン開くとひよ鳥が  
 一羽寂しく枯れ枝の上  
 老いて行く日々の静けさもの思い  
 デイサービスの楽しい食事  
 アイヌ刺繍初めて習う楽しさは  
 出来上がり見て先生感謝  
 名も知れず窓辺で咲いた白い花  
 よこれを知らぬ乙女のような  
 家の側小鳥がたくさん集まって  
 花の芽膨らみ楽しみ増える  
 雪の跡枯葉がとんで鳥のよう  
 団体くんで飛び舞うようだ  
 横になる体調くずし儘ならぬ  
 まごを頼りに菓のみつつ  
 日が暮れて陽向反射茜色  
 海原染まり絵画のごとに  
 うらかな春の日差しに安らぎて  
 長き歩みを振り返り見る

前川 静江  
 山岸 明美  
 小澤 つや  
 小川 房子  
 長屋美代子  
 山久保敬子  
 堀井あやの  
 角田美代子  
 佐藤 成子  
 星 愛子

## 編集後記

■近年では珍しい大雪と季節外れの降雨を繰り返し、町民を苦しめた長い冬もようやく終わり、やっと春が訪れました。東山の桜が満開になる日が楽しみです。  
 ■この冬は素晴らしい出来事もありました。サッカー少年団、アイスホッケー少年団のキャプテンが、それぞれ十勝選抜チームで全国大会に出場し優勝。中心選手として活躍しました。人数のハンデを背負いながら戦ってきた2人。子どもの数は急に増えるものではありませんが、本人の頑張りや仲間の応援に加え、夢に寄り添い、支える保護者や指導者、地域の人たち一人一人を輝かせる力があると改めて感じました。  
 ■両少年団だけでなく、浦幌の地域ぐるみで子どもを育てていく姿は世代を超え培われてきた豊かな「土壌」。良き伝統を大切にしながら、その上に子どもたちが発想した新しい花を咲かせていければと思います。  
 (大)  
 ■掲載された写真は、差し上げますので(本人または家族)、お気軽にご連絡ください。